

7歳虐待死

暴行後長時間放置か 継父供述に矛盾、家宅搜索

大阪市西淀川区の小学2年、藤永翼君(7)虐待死事件で、翼君が搬送された25日の午後1時ごろ、翼君の自宅から、何かがぶつかるような音や翼君の泣き声などがしていたことが29日、近所の住民への取材で分かった。翼君が搬送されたの

は25日夜で、大阪府警西淀川署は翼君が暴行後しばらく放置されたり、昼ごろから断続的に暴行を受けたりしていた疑いがあるとみている。

一方、継父の無職、森田勝智容疑者(44)＝傷害致死容疑で逮捕＝は「夕方に帰



藤永翼君の自宅では家宅搜索に加え、現場検証も行われた。＝29日午前、大阪市西淀川区

宅した後、翼とプロレスごっこをしていた」と矛盾する説明をしており、同署は犯行当日の詳細な経緯などを調べるため、29日午前、森田容疑者宅の家宅搜索と現場検証を始めた。

近所の主婦によると、25日午後1時ごろ、「ガタン」という大きな音がし、それまで聞こえていた翼君の泣き声がしなくなった。直後に、勝智容疑者が「おい。おい」と呼びかけ、実母の良子容疑者(29)＝同＝が「翼、目を開けて。パパを困らせる気か」と叫んでいたという。

約6時間半後に良子容疑者が119番し、翼君は救急搬送された。この際、良子容疑者は心配する近所の人に「持病の発作が起きた」などと説明。同署によると、翼君には発作を伴う持病はなく、虐待を隠そうとしたとみられる。